

うらやま たきざわ
浦山ダム、滝沢ダム
「防災操作」で河川水位上昇を緩和

どくりつぎょうせいほうじんみずしげんきこう あらかわ
独立行政法人水資源機構 荒川ダム総合管理所が管理する浦山ダム及び滝沢ダムでは、台風12号による豪雨により増加した河川水の一部をダムに溜め込む「防災操作」を行いました。

浦山ダムでは、この出水に対して、ダムに流れ込む水の量が最大（毎秒約64立方メートル）の時に、毎秒約60立方メートルの水を貯水池に貯め、下流の浦山川の花御堂地点はなみどうにおいて河川の水位を推定0.9m低下させることができました。

滝沢ダムでは、同様に、ダムに流れ込む水の量が最大（毎秒約150立方メートル）の時に、毎秒約47立方メートルの水を貯水池に貯め、下流の中津川なかつがわの太平橋地点たいへいばしにおいて河川の水位を推定0.4m低下させることができました。

※防災操作とは、大雨などの際、流れ込む水の一部をダムに一時的に溜め込むことでダムから下流へ流す量を減らし、下流の川の水位を低減させるダムの操作方法です。



平成30年7月31日

独立行政法人 水資源機構
荒川ダム総合管理所

発表記者クラブ

秩父記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 荒川ダム総合管理所
総務課長 おおいわ 大岩
第一管理課長 とみだ 富田

埼玉県秩父市荒川久那4041
TEL 0494-23-1431（代表）

浦山ダム、滝沢ダムの防災操作 ～台風12号による降雨において河川水位上昇を緩和～

【台風12号による出水】

台風12号の影響で、28日（土）未明より本格化した降雨は、浦山ダム流域では総雨量224ミリに達し、浦山ダムに流れ込んだ水の最大量は、毎秒約64立方メートルに達しました。

また、滝沢ダム流域では総雨量186ミリに達し、滝沢ダムに流れ込んだ水の最大量は、毎秒約150立方メートルに達しました。

（※ 総雨量は28日3時から29日23時までの値）

【浦山ダムで最大毎秒約60立方メートルの防災操作を実施】

この出水に対し浦山ダムでは、ダムに流れ込んだ水のうち、約208万立方メートルをダム湖に貯めて、川の水を減量しました。これは東京ドーム約1.7杯分になります（添付資料1参照）。最も多くダムに水が流れ込んだ時（毎秒約64立方メートル）に、ダムから流している水の量は毎秒約4立方メートルでした（低減量毎秒約60立方メートル）。

【滝沢ダムで最大毎秒約47立方メートルの防災操作を実施】

この出水に対し滝沢ダムでは、ダムに流れ込んだ水のうち、約113万立方メートルをダム湖に貯めて、川の水を減量しました。これは、東京ドーム約0.9杯分になります（添付資料2参照）。最も多くダムに水が流れ込んだ時（毎秒約150立方メートル）に、ダムから流している水の量は毎秒約103立方メートルでした（低減量毎秒約47立方メートル）。

【浦山ダムの防災操作による下流河川の水位低減効果】

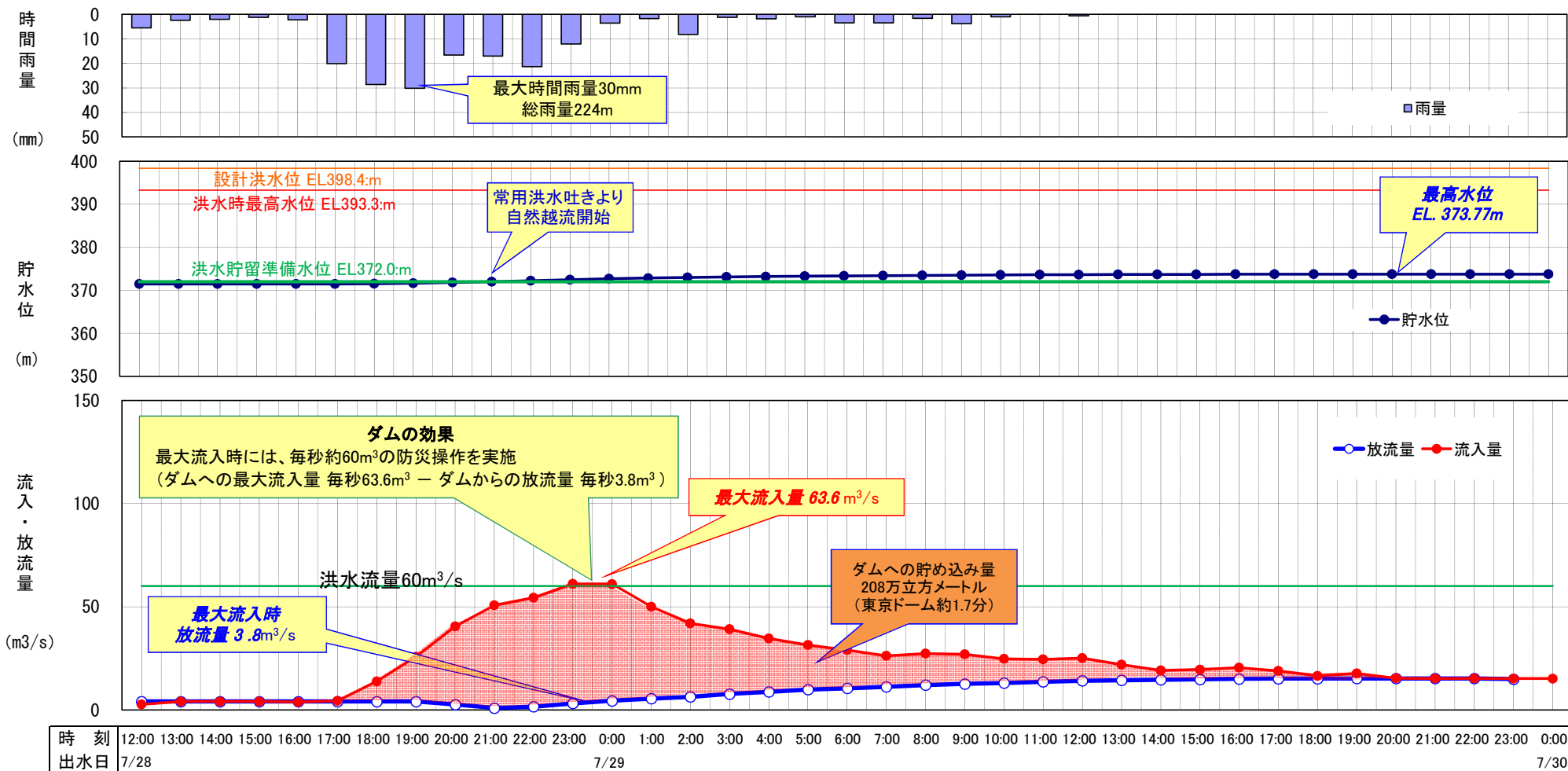
今回の出水における防災操作により、ダム下流の花御堂（あらかわく 秩父市荒川久那）な）地点（添付資料4参照）において、約0.9メートル水位を低下させたものと推定されます。

【滝沢ダムの防災操作による下流河川の水位低減効果】

今回の出水における防災操作により、ダム下流の太平橋（おおたき 秩父市大滝）地点（添付資料5参照）において、約0.4メートル水位を低下させたものと推定されます。

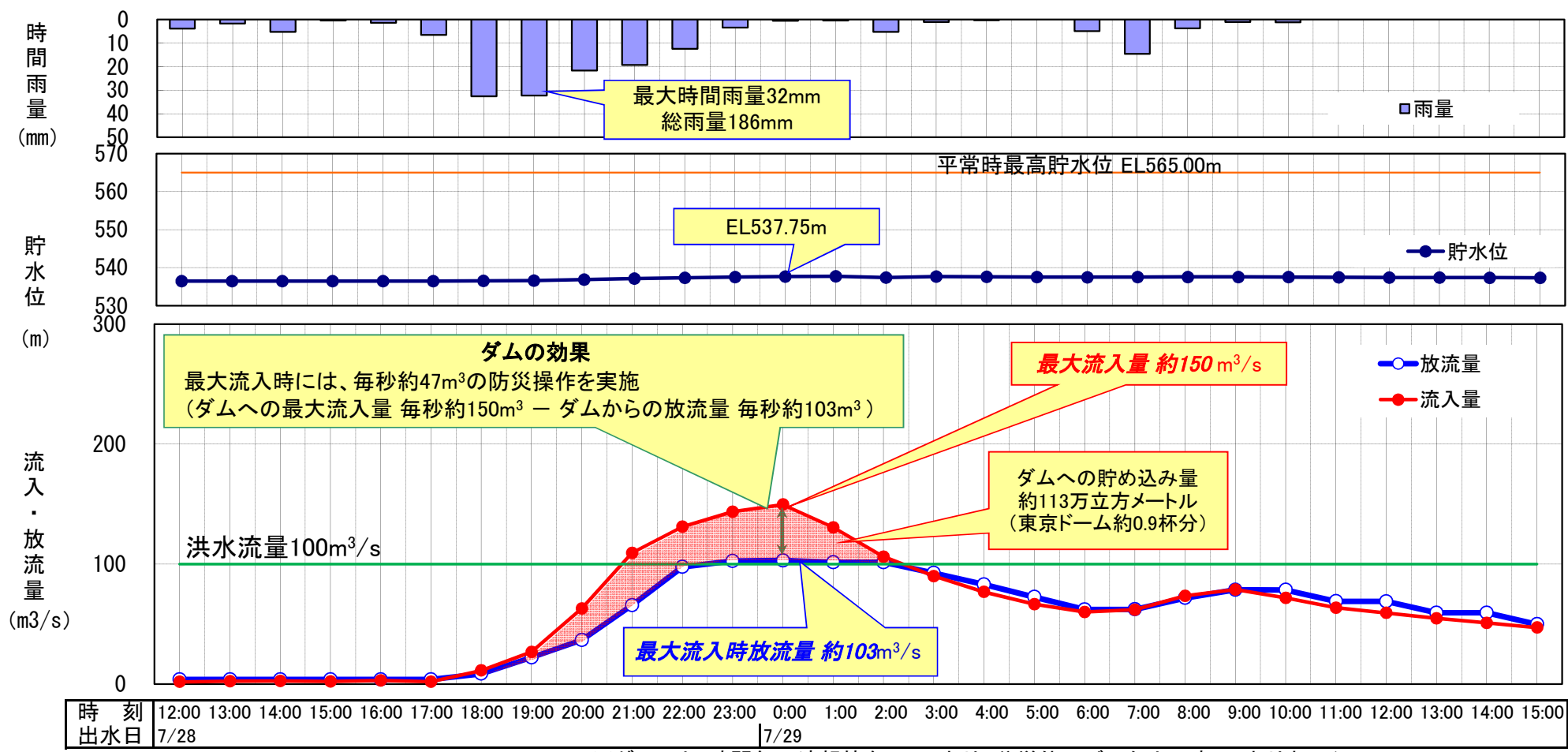
■浦山ダム防災操作図（平成30年7月28日～29日 台風12号）

資料1



※グラフは1時間毎の速報値を示しており、分単位のデータは反映していません。

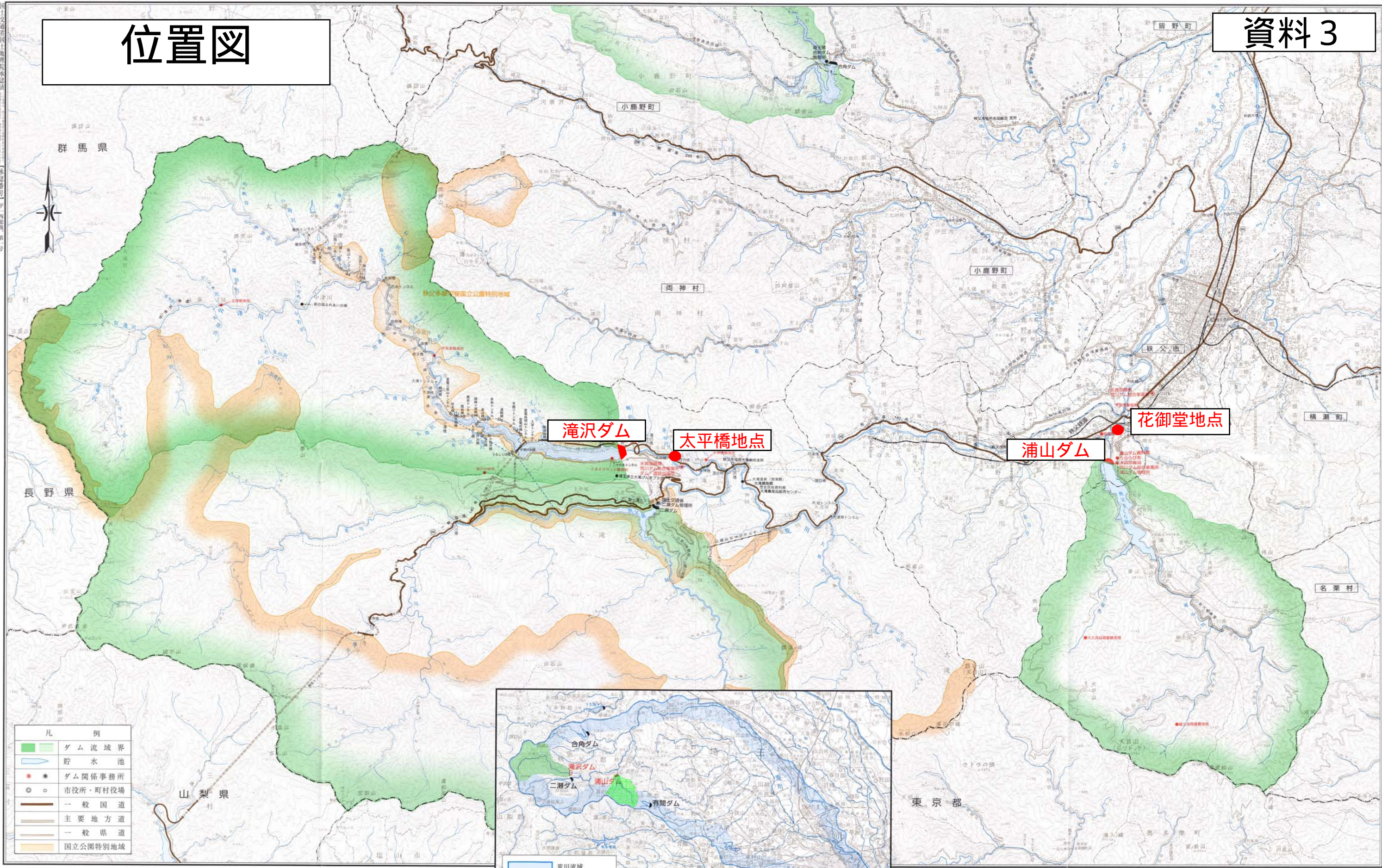
■滝沢ダム防災操作図（平成30年7月28日 台風12号）



※グラフは1時間毎の速報値を示しており、分単位のデータは反映していません。

位置図

資料 3



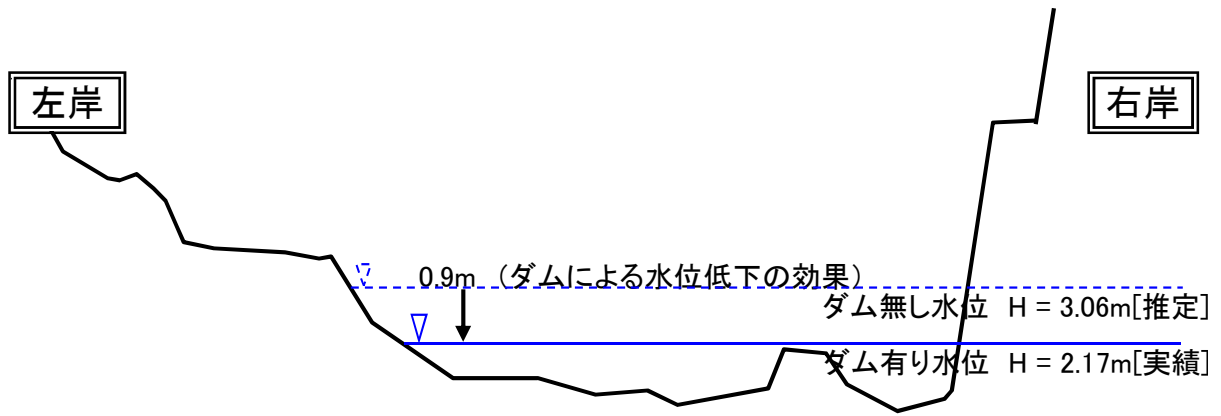
凡 例	
	ダム流域界
	貯水池
	ダム関係事務所
	市役所・町村役場
	一般国道
	主要地方道
	一般県道
	国立公園特別地域



ダム位置図

■下流河川の水位低減効果 浦山川花御堂地点(秩父市荒川久那)

花見堂地点横断面図



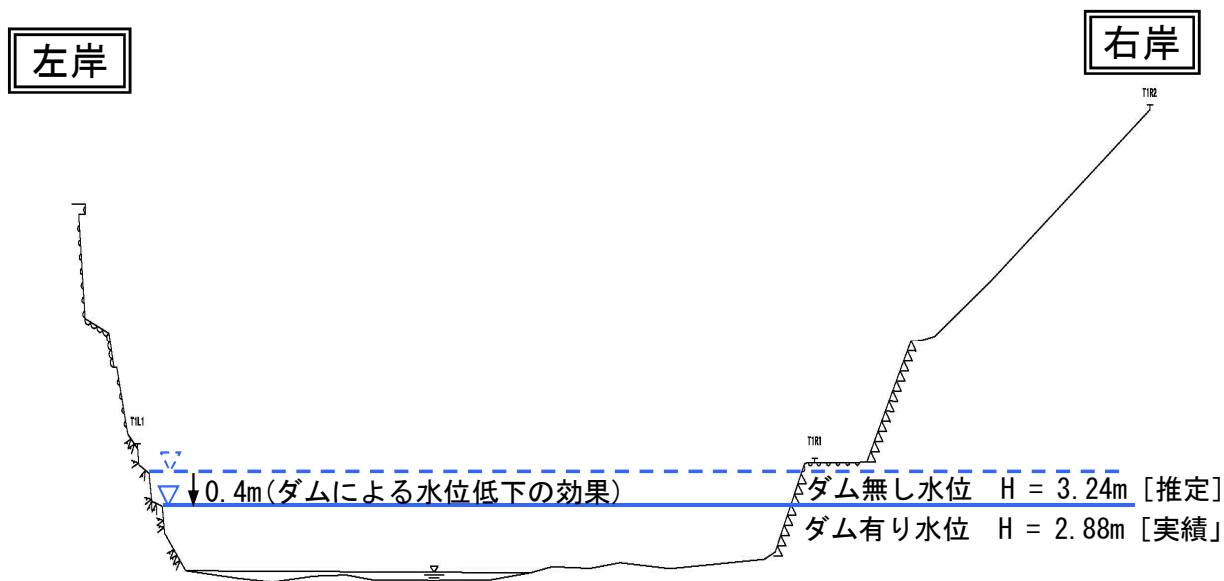
橋立川キャンプ場



※写真は、台風12号による出水以前のものです。

■下流河川の水位低減効果 太平橋地点(秩父市大滝)

大平橋地点横断面図



中津川大平橋



※写真は、台風12号による出水以前のものです。